

学校支援を積極的に進める

地域と協力し、学校支援を行う P T A 活動

大府市立東山小学校 P T A

1 はじめに

本校は、大府市の中央部に位置し、児童数 505 名、学級数 21 学級（うち特別支援学級 4 学級）の中規模校である。近隣の小学校の大規模校解消を図るために、市内 8 番目の小学校として平成元年に開校した。

古くからの町並みと新しく開かれた住宅地、田畑や用水池に囲まれ、東山の名にふさわしい高台の好環境に立地している。落ち着いた環境の中で、「学校のために」と協力的な地域の方や保護者から温かく見守られている学校である。校訓「なかよく かしこく まっすぐに」のもと、「人間力を高め、主体的に生きようとする子ども」を育成することを目指し、家庭や地域と連携をとりながら教育活動を進めている。



【シンボルの時計台と校舎全景】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校の P T A は、地域の組織と連携し地域の行事や活動の運営にも積極的に関わり、児童や家庭が地域行事に参加しやすい土壌づくりを行っている。区民運動会に P T A が運営をするバザーを出したり、コミュニティ推進協議会の部員として、活動の企画・運営をしたりしてきた。

しかし、平成 31 年度末より新型コロナウイルス感染症のため、例年行っていた行事が中止されるなど、地域・学校ともに活動が制限をされる状態が続いていた。本年度は、ウィズ・コロナの取組として、できる活動を工夫しながら行っていく方針の下、地域と協力して学校支援を行っていくこととした。

(2) P T A の組織と地域ボランティア

P T A の組織は、常任委員と学級委員・地域委員で構成される。常任委員は保護者から 13 名（総務部である会長 1 名・副会長 2 名・書記 1 名・会計 1 名の計 5 名と 4 部の部長・副部長 8 名）と、教職員から 4 名（校長・教頭・教務主任・校務主任）で構成され、企画・運営の中心となっている。

学級委員は各学級から 3 名ずつ選出され、文化厚生部・環境部・広報

部に分かれ、各部に部長と副部長をもうけている。地域委員は、地区の実情に応じて12地区から1～3名選出され、生活部として活動している。

地域ボランティアとしては、登下校の様子を見守る「見守り隊」、読み聞かせをする「ダンボの会」がある。さらに、地域の力として東山コミュニティの家庭教育部会や体育推進部会などに、活動に応じて支援をいただいている。

3 実践活動の概要

(1) 安心・安全への支援

① 登校時・下校時の見守り

子どもたちが安心・安全に登校できるようにするために、毎日通学路の横断歩道で交通当番の活動を行っている。生活部が中心となって各地区の当番表を作成し、割り当てられた日の朝に登校時の安全の見守りを行っている。それに加え、地域ボランティアとして見守り隊の方も交差点や横断歩道での交通立哨や付き添い登校をしてくださっている。



【家庭教育部会によるあいさつ運動】

また、生活部員の一部は東山コミュニティの家庭教育部会の部員となっており、年に10回ある下校時のパトロールや、年8回の登校時のあいさつ運動にも参加している。コロナ禍前は、子どもたちも一緒にあいさつ運動に参加したり、地域の方とハイタッチであいさつを交わす場面がみられたりしたが、現在は明るい声であいさつを交わすことを目標としている。

どちらの活動も、保護者と地域の方が登下校の子どもたちの様子を直接情報交換することができる有意義なものとなっており、保護者や地域の方々に見守られ、子どもたちは安全に安心して登下校を行っている。

② 通学路安全点検

通学路の安全を守るため、毎年5月に保護者へ呼びかけて通学路安全点検を行っている。危険箇所を洗い出し、そこから対策を常任委員会で検討をし、改善要望箇所3か所に絞っている。そして、7月に行われる市の教育懇談会において、PTA会長が改善要望箇所について伝えている。昨年度要望した通学路の改善箇所も、昨年度内に対策が取られており、市の早々の対応に感謝している。

また、見守り隊からは道路の陥没などの情報や、子どもの通学の妨げになっている路上駐車の情報などが、随時学校に寄せられ、安全な

通学路にするためのご協力をいただいている。

(2) 環境整備への支援

① 花壇整備

P T A環境部が中心となり、年2回（6月・11月）メイン花壇の整備を毎年行っている。メイン花壇のデザイン募集は、緑化委員会のキャンペーンの一環として行っている。子どもたちが応募したデザインを緑化委員会が選び、そのデザインを基にP T A環境部が数種類の苗を植え付けている。



【P T A環境部によるメイン花壇整備】

長期休業中の灌水や除草作業もP T A環境部で当番を割り振り、取り組んでいる。

花の苗は「花いっぱい運動」の一環として大府市からいただいたものを一部使用している。

② トイレピカピカプロジェクト

文化厚生部が中心となって、トイレピカピカプロジェクトを年4回行っている。これは、子どもと保護者の有志が土曜日にトイレ清掃を行う企画である。近年は参加者数が増えており、密になってしまう場面が出てしまうことで、受付の場所や開閉会式の場所を広い体育館に変更した。そして、トイレだけではなく手洗い場や廊下の清掃も行っている。作業時間は30分ほどではあるが、子どもたちだけの力ではきれいにしきれない汚れを落とすことができ、学校の環境整備の一翼を担う大切な活動になっている。



【トイレピカピカプロジェクト】

参加している子どもたちは、自分たちの手で学校をきれいにしていることで達成感を味わうとともに、協力していただいた保護者へ感謝の気持ちをもっている。

(3) 子どもの学校生活への支援

① 東山ふれあいフェスタの運営補助

東山ふれあいフェスタは、地域の方が講師となったコーナーを子どもたちがスタンプラリーとしてまわる地域連携の行事である。毎年、P T A総務部はコーナーを担当している。本年度は3年ぶりの開催と

なったが、感染症予防対策のため、講師は日ごろから本校に出入りをしている地域ボランティアのみとした。そのため、コーナー数の不足を埋めるために教師が一人1コーナー担当し、その運営補助にPTA学級委員・地域委員の有志が参加する形をとることとした。



【東山ふれあいフェスタ】

子どもたちは久しぶりに開催したこの行事を満喫し、地域の方や保護者の方への感謝の思いをもった。また、有志として参加した保護者からは、「子どもたちのために、また来年もお手伝いをしたい」という声が多数寄せられた。

② ダンボの会への本の寄贈

毎週火・金曜日の朝の読書タイムに地域ボランティア「ダンボの会」による読み聞かせを行っている。「ダンボの会」は保護者だけではなく、卒業生の保護者や地域の方が所属し、絵本を読み聞かせしていただいている。絵本は会員が用意をしているため、毎年、PTAから絵本の寄贈をしている。その代金は地元商業施設の企画「イエローシートキャンペーン」に応募することで賄っている。この企画へは、保護者だけではなく、地域の方も多数協力していただいております。毎年20冊近くの本を寄贈することができており、バラエティに富んだ絵本を子どもたちに読み聞かせすることができている。



【ダンボの会による読み聞かせ】

4 おわりに

コロナ禍での学校行事やPTA活動は、制限のある中での活動ではあったが、「どのような方法で何ができるか」を考え工夫しながら行ってきた。この研究を通して、これまで実施してきたPTA活動が子どもたちの健やかな成長と豊かな感性を育む教育活動を多岐にわたって支えていることを再確認した。これらの活動は保護者や地域の方の理解と協力があったことも多い。PTAの役割である家庭・地域・学校との連携を図っていく大切さを強く感じた。

今後も、それぞれに負担がかからないように、絆を大切にしながら、教育活動を支援していくPTA活動の充実を図っていきたい。